

保育実践力を高めるための実践的アプローチ その4

－保育者研修における実践活動内容の検討－

大 木 みどり 幼児教育科

（2015年10月1日受理）

〔要 約〕

本研究では、保育内容研究「表現」の授業内容について、教員免許状更新講習受講者を対象として実践し、保育実践力を高める可能性について検討した。

また、それらの実践内容について、幼児の表現遊びへの活用の可能性について検討した。

- （1）受講者は、講習における自己表現やグループでの表現活動の体験を通し、幼児の表現遊びへの理解が深まり、様々な実践活動での学びを得ている。この結果として、保育実践力が高められる可能性があることが示唆された。
- （2）活動に使用した素材は身近にあるもので手に入り易く、また実践活動の中での多様な使い方の体験が、幼児の表現遊びへの活用イメージや実際の表現遊びへの活用へと繋がっていくことが示唆された。
- （3）保育者が幼児の表現活動を援助する上での主な課題として、興味を示さない子や苦手な子への援助、年齢・発達に合わせた援助等が挙げられている。

I. はじめに

筆者らは「イメージと即興表現を引き出すための手遊びの重要性（1）」、「保育実践力を高めるための実践的アプローチ（1）～（3）」（註1）～（註4）において、本学の保育内容研究「表現」の授業実践を通して、学生の保育実践力を高めるための実践的アプローチについての研究を進めてきた。

この中で、学生の表現の授業に対する意識の実態を把握するとともに、授業実践活動の内容や、取り入れた手遊びや墨汁及び面白シアターが、学生の創造的で自由な自己表現を引き出し、また保育実践力を引き出す素材としての可能性について検討し、その有効性についての示唆を得ることができた。

一方、保育現場では幼児の表現活動について、年齢や幼児の発達や興味等の状況に合わせて様々な表現遊びが行われているが、保育者にとっても「幼児期の表現活動・表現遊び」は、活動内容や展開、素材の選択や支援の方法等について、困難さを感じている様子も窺える。

教員免許状更新講習受講者の事前アンケートでも「子どもの年齢、発達に合った表現遊びの導入の仕方・展開方法」、「身近な素材を活かした表現活動」、「表現を引き出すための環境構成」、「表現遊びの楽しさを伝えるための実践方法」、「表現する意欲を引き出し、友達と関わる喜びを味わえる表現遊びの内容や援助」等、幼児の表現遊びについての課題が挙げられて

いる。

「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」において、「表現活動」についてのねらいと内容及び内容の取扱いについて明示されているが、それらを具体的な環境設定、活動内容、素材の選択、活動の展開等として捉えること、実践することは容易ではないことが推察される。

そこで本研究では、今年度、本学教員免許状更新講習の選択科目「子どもと表現遊び」において、保育内容研究「表現」の授業内容について実践し、受講者へのアンケート調査から、実践活動内容や素材及び活動の展開等が保育者自身の保育実践力を引き出す可能性や、実際の保育・表現遊びにおける活用の可能性について検討する。また、この結果から授業における今後の課題についても探っていく。

II. 研究の目的と方法

1. 教員免許状更新講習における、保育内容研究「表現」の授業内容の実践活動が、受講者の保育実践力を高めることに繋がったかについて検討する。
2. 保育内容研究「表現」における授業内容について、幼児の表現遊びへの活用の可能性と課題を検討する。
3. 幼児の表現遊びの実態と保育者の表現遊びを援助する際の課題について探る。

上記の目的のために、教員免許状更新講習「子どもと表現遊び」の受講者へアンケート調査を実施する。

Ⅲ. 結果と考察

1. 受講者について

本学の教員免許状更新講習の選択科目「子どもと表現遊び」の受講者は48名であった。男性は1名、女性が47名である。

(1) 受講者の年齢

表1、図1は、受講者の年齢を年代別に表したものである。30代が20名、40代が19名、50代が9名となっている。

表1：受講者の年齢

年齢	人数（名）
30代	20
40代	19
50代	9

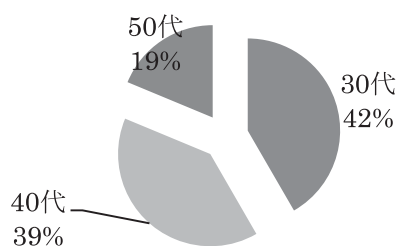


図1：受講者の年齢

(2) 受講者の所属

表2、図2は、受講者の所属を表したものである。幼稚園が14名（29%）、認定子ども園が12名（25%）と3割弱で、次に公立保育園が8名（17%）、法人立の保育園が7名（15%）、教員が3名（6%）、その他が4名（8%）となっている。今年度4月に施行した「子ども・子育て支援新制度」により、山形県内の認定子ども園は昨年の20施設から増加し、29施設となった。平成27年度新たに認可された施設は14である。受講要件も拡大したこと、また少子化の進む中で今後の動向を見据え、保育園所属の受講者も増えたものと推察される。

表2：受講者の所属（名）

所属	全体	50代	40代	30代
幼稚園	14	2	8	4
認定子ども園	12	2	4	6
保育園（町立）	8	5	2	1
保育園（法人）	7	0	2	5
教員（小学校等）	3	0	1	2
その他	4	0	2	2

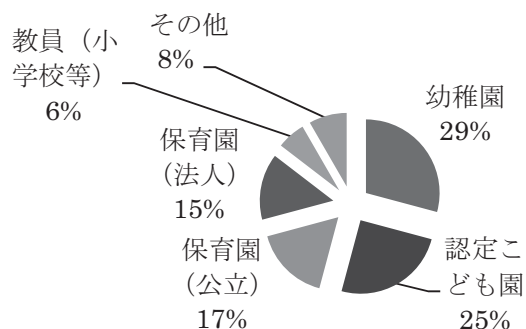


図2：受講者の所属

(3) 受講者の勤続年数

表3、図3は受講者の勤続年数について、所属別に表したものである。

幼稚園では21年から25年勤続が7名（40歳代）と最も多く、31年から35年勤続が2名（50歳代）いる。

認定子ども園ではそれぞれの勤続年数毎に2名から3名の受講者がいる。

公立保育園では31年から35年勤続の受講者が2名（50歳代）いる。21年から25年勤続に3名いる。勤続年数が長いものと短い者の差が大きい。

法人立保育園では50歳代の受講者はいない。25年までの勤続年数毎に1名から2名の受講者がいる。

教員は、小学校教員、特別支援学校教員等である。その他は、現在求職中の受講者である。勤続年数が、1年から5年が40歳代・30歳代で各1名、11年から15年が30歳代で1名いる。

幼稚園、公立保育園では、勤続年数が31年から35年の50歳代の受講者がいるが、認定子ども園、法人立保育園では50歳代の受講者が1名と少なく、したがって勤続年数も30年以下となっている。また公立保育園の受講者は30歳代1名、40歳代2名と少なくなっている。近年の公立保育園の民営化の影響で、各市町村での公立保育園の減少が影響していることが推察される。

表3：受講者の勤続年数

勤続年数	幼稚園	認定 こども園	保育園 (公立)	保育園 (法人立)	教員 (小学校等)	その他
1～5	1	0	2	1	2	3
6～10	1	2	0	1	1	0
11～15	2	2	0	2	0	1
16～20	1	2	0	2	0	0
21～25	7	3	3	1	0	0
26～30	0	2	1	0	0	0
31～35	2	1	2	0	0	0

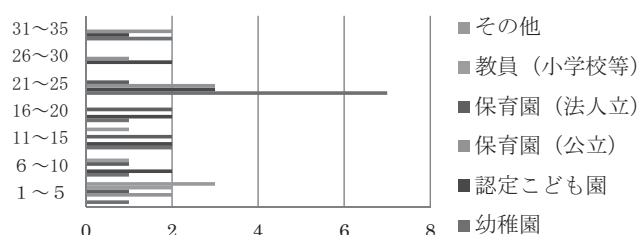


図3：受講者の勤続年数

(4) 受講者の雇用形態

表4、図4は受講者の雇用形態について表したものである。

受講者の内33名（69%）、ほぼ7割が正規職員である。臨時職員は6名（13%）、パート職員は5名（10%）とそれぞれ1割を占めている。

表4：受講者の雇用形態

雇用形態	人数
正規職員	33
臨時職員	6
パート職員	5
その他	4

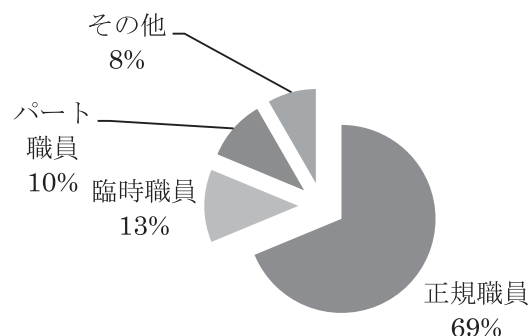


図4：受講者の雇用形態

2. 実践活動内容について

(1) 講習内容について

表5は今講習会で実施した、保育内容研究「表現」の授業実践活動内容と活動の流れの概要及び主な使用素材について表したものである。写真は、実際の活動場面である。

表5：実践活動内容と素材

	内容	素材
①	<p><リラクセーション・コミュニケーション・身体表現遊び></p> <ul style="list-style-type: none"> 自由に歩きながら、腕や肩、首を回す。 仲間作りゲームで、指示された人数になり、自己紹介を行う。 全員でひとつの円になり、隣の人に拍手を送る。 1人がリーダーとなり、各自が考えた動きを送る。 何か分からないもの（イメージ・想像上のもの等）を送る。送られた人は自分のイメージしたものに自由に変化させながら次の人に送る。 床の上に体を伸ばし、全身の力を抜いてリラックスする。（講師が即興で表現する音を聞きながら） 	<ul style="list-style-type: none"> ツリーチャイム ミニシンバル レインスティック
②	<p><紙テープ遊び・オブジェ遊び></p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の選んだスカーフの色同士集まり、グループとなる。（8色・6人） 8色の紙テープを各自1色選ぶ。 全員で円を作り、対角線上に順次転がす。 床に紙テープで描かれた作品を見る→自分の紙テープと他の人の紙テープを持ち、全員でゆっくり持ち上げる。 CDを聞きながらメリーゴーランドのように歩いて回る。 何人かは紙テープのメリーゴーランドの下に入り、下から動くメリーゴーランドを眺める。 使い終わった紙テープを中央にまとめ、紙テープの山を作る。 8色のグループに分かれ、カラフルな長い布で先に準備されているパネルに、使い終わった紙テープ、自分のスカーフ・カラービニールなどを使いオブジェを作る。 グループ毎にテーマとオブジェ作品を発表する。 8つのパネルを並べて、空間オブジェを作る。（今後のグループ活動も同じメンバーで行う。） 	<ul style="list-style-type: none"> 紙テープ スカーフ 布 パネル CD カラービニール クリップ 鋏 セロハンテープ等

③	<p>＜墨汁と紙コップの表現活動＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・床にブルーシートを敷き詰める。 ・紙コップと墨汁を使った表現活動についての説明を聞く ・グループ毎、紙コップ・墨汁・ボール・ウエットタオル・ガムテープの入った籠、白のロール紙を持っていき、ブルーシートの上にロール紙をテープで止める。 ・講師のデモンストレーションを見る。 (垂らす・紙コップでスタンプする・こする・描く等の自由な表現活動の実践) ・グループ毎、各自自由に表現活動を行う。(場所を変えながら行っても良い) ・描き終えたら、作品はそのままにし。用具を返す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・墨汁 ・紙コップ ・ロール紙 ・ボール ・ウエットタオル ・ブルーシート ・ガムテープ ・バケツ ・ゴミ袋
④	<p>＜手遊びとその展開＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幾つかの手遊びを全員で一緒に行う。(トントントンネル・グーチョキパーで何つくろう等) ・前回のスカーフの色毎の6人グループになり、各自知っている手遊びを発表していく。 ・グループ内で発表された手遊びから1つ選び、発表する。発表された手遊びを全員で行う。 ・グループで手遊びを1つ選び、歌詞や動きを変えたり、スカーフを使う等、様々な遊びへと発展させる。 ・各グループの作品を発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・手遊び ・スカーフ
⑤	<p>＜墨汁作品のコラージュとパフォーマンスへの展開＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出来上がった全グループの墨汁の作品を見て回る。 ・全作品の中から、各自が気に入った部分、印象的な部分、面白いと感じた部分などを自由に5ピース切り取る。 ・グループ毎、8色のカラーロール紙から2枚選び、各自が切り取ってきた5枚のピース、その他、前の活動で使用した紙テープやカラービニール等を貼り付けてコラージュする。 ・コラージュした作品から、お話を作り、音、動き、言葉を含んだ3分程度のショートパフォーマンスを創作する。 (様々な打楽器を準備しておく) ・グループ毎、ショートパフォーマンス作品の発表を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ハサミ ・カラーロール紙 ・スプレーのり ・ボンド ・紙テープ ・カラービニール等 ・台本記録用紙 ・様々な打楽器

表5に示したように、今回の講習内容は、保育内容研究「表現」の授業実践活動であり、学生が実際に行っている内容となっている。

授業では表現活動を実践する上で「リラクセーション」「コミュニケーション」「即興表現」を重要視している。講習会においても同様であり、リラックスし、コミュニケーションが取れる「表現の場」を作ること、また、技術的なことを要求しない、自分の感じたことや考えたことを即興的に表現していくことを大切にしている。その中で受講者自身は様々な気づきが促され、自由な表現活動へと向かうことができるものと考えている。

素材については身近にあるものを取り入れること、その活用の多様性への気づきを促し、それらの展開についてイメージすることができるよう意図している。操作や技能が求められることがあまりなく、年齢や発達、経験の状況に合わせて多様な使い方ができるものを取り上げている。幼児は身近な素材と関わること、何気ない触れ合いを楽しむことから、すでに言葉では表現できない自分自身の表現の世界を楽しんでいる。その素材との出会いやプロセスを体験していくことで、学生、受講者も幼児と同じように、自分自身の自由な表現の世界を感じ楽しむことをねらいとしている。

活動の方法としては、グループ活動を中心としたものとしている。個々の表現活動を行うことと、それら

の表現活動をグループ内で共有・共感し、さらにグループとして一つのものを創りあげていくためには、グループ内の円滑なコミュニケーションが求められる。

表現活動においては、互いの表現を大切にし、認め合うこと、様々な意見を出すことができる関係性の構築が重要であり、グループ活動はその場を提供するものと考えられる。

活動内容は様々な展開をするように進めていく。例えば紙テープは、床に転がして描く活動から、音楽に乗ってリフトアップし空間に浮かしながら回った後は、オブジェ創りの素材となり、コラージュからパフォーマンスまで活かされる。このように素材も様々な場面で多様な使い方をする。

また、展開の方法として、表現の方法を変えていく内容となっている。例えば墨汁と紙コップの活動では、切り取ったのコラージュ、お話作り、音での表現、パフォーマンスと、多様な表現方法で展開していく。これらは、多方向に表現の方法を展開していくことで、表現の多様性、豊かさへ繋がっていくものと考えられる。

それぞれの活動では、発表することも行っている。他の人、他のグループの発表を見ることは、楽しみであり、新たな気づきを促し、その人やグループの表現への理解を促す機会となるものと考えられる。

【活動場面写真】

<紙テープでのオブジェ作り>



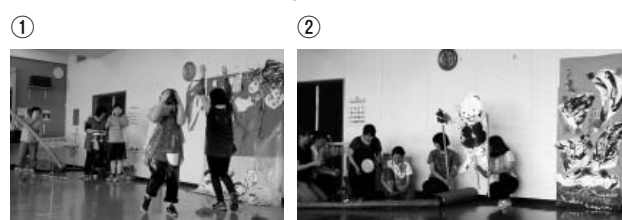
<コラージュ活動>



<墨汁と紙コップでの表現活動>



<パフォーマンス>



(2) 講習内容についての反応

1) 講習内容全体についての反応

図5は講習内容についての受講者の反応である。「良かった」と回答した受講者は40名(83%)、「だいたい良かった」が8名(17%)となっており、内容については良い評価となっている。

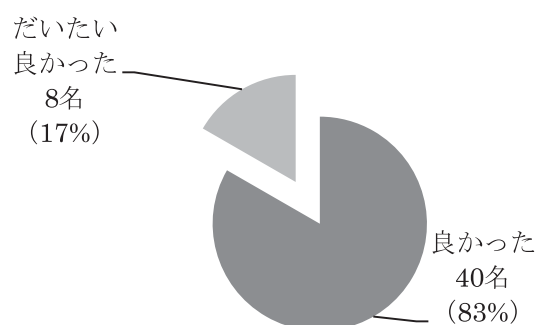


図5：講習内容について

受講者の回答には、「これまで手掛けてこなかった内容であり、大変新鮮な感触でよかった」、

<手遊びとその展開>



「自分の保育を見直す良い機会となった」「見た目や形にとらわれず、自分を表現したり、形を創る楽しさを体験できた」、「日常ではあまり感じるののできない達成感を久しぶりに感じた」「いろいろな気づきがありました。久しぶりに楽しいと心から感じた活動でした」、「チームメイトと共に考え表現し、受け入れられることで得た達成感や満足感はとても大きく、人と人の距離をぐっと縮めることのできる表現活動を体験できてよかった」、等が挙げられており、表現活動の体験の良い機会と捉えていることが窺える。また、「多くのヒントをもらい、自分のスキルが上がったと感じる、とても楽しい講習内容であった。グループ活動を通し、人との関わりの喜びや楽しさを改めて感じ、新鮮な気持ちを味わえた」、「保育実践に活かせることを実際に体験し、思いっきり楽しむことができました。明日からの保育にぜひ活かしていきたい」、「参加している先生方の発想とアイデア、演技力、語り方、口調、技術全てが刺激的で勉強になった」等、この講習会での実践を通し、自己表現やグループ表現の楽しさと共に、様々な学びが得られ、保育実践力を高めるための良いきっかけとなる体験として捉えているものと推察される。

2) 参加意欲について

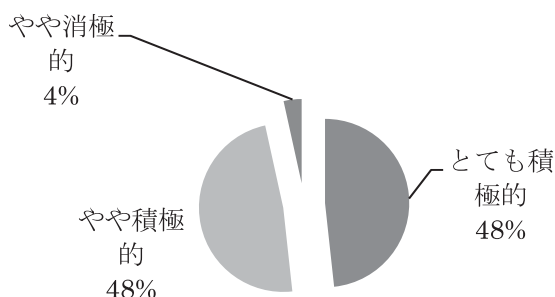


図6：参加意欲について

図6より、受講者の参加意欲については、「とても積極的」が48%、「やや積極的」が48%と、ほとんどの受講者が意欲的に参加していることが窺える。中には表現を苦手と感じている受講者もみられ「人前で表現するのは恥ずかしい」、「わりと苦手な分野だが、楽しく参加した」等の回答も見られ、「やや消極的」との回答に繋がったものと思われる。

3) 実践難易度について

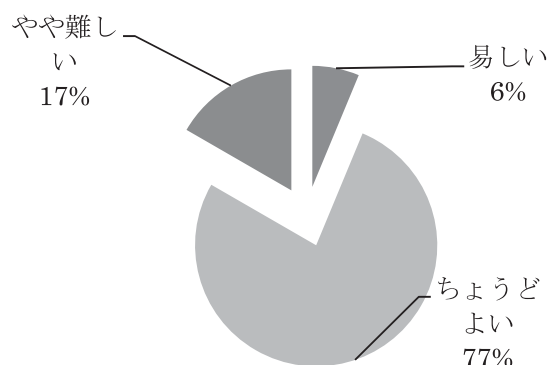


図7：実践の難易度について

図7より、実践活動の難易度については、「ちょうど良い」が最も多く、77%であった。特に難しい技術的なものを求める内容でなく、素材や受講者同士の関わりの中から引き出される表現活動を大切にされた内容であり、8割近くの受講者が「ちょうど良い」と回答していることから、活動内容としてはほぼ適切であったものと推察される。

4) 参考になった素材について

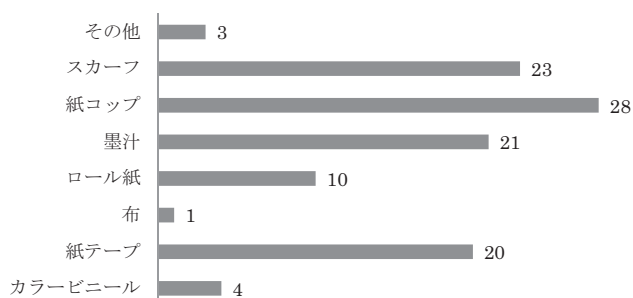


図8：参考になった素材について

図8より、今回の講習会で使用した素材について参考になった物としては、「紙コップ」が28名（58%）、スカーフが23名（48%）、「墨汁」が21名（44%）、「紙テープ」が20名（42%）、「ロール紙」が10名（21%）となっている。6割以上の受講者が参考になったとして挙げている「紙コップ」は墨汁の活動時に描くも素材として使用したが、身近にあり入手しやすいこと、また使用する大きさによる変化や紙コップの形を様々変化させていくことで、多様な使い方ができることなどによるものと推察される。講習では墨汁との組み合わせで使用したが、実際の保育では絵具等を使用することへの展開もできるものと思われる。

半数近くの受講者が参考になったとして挙げて

いる「スカーフ」は、今回はグループ分けやオブジェ、手遊び、ショートパフォーマンス等に使用したが、色も多種あり、素材も柔らかく、身につける、飛ばす、お話作りの素材など、多様な使い方が可能である。保育現場においても活かすことのできる素材として、参考になるとの回答に繋がったものと思われる。

4割の受講者が参考になったとして挙げている「紙テープ」も同様に身近な素材ではあるが、これもダイナミック活動や展開など、使い方の意外性や体験を通しての様々な気づきが促されたことが参考になるとの回答に繋がったものと思われる。

受講者の回答の中で、素材については「一つの素材でのいろいろな使い方があり、組み合わせることによって無限に表現できると感じた」等が挙げられている。

5) 参考になった実践内容

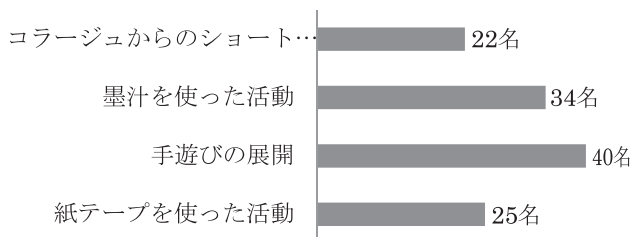


図9：参考になった実践内容について

図9より、参考になった実践活動は（複数回答）、「手遊びの展開」が40名（83%）、「墨汁を使った活動」が34名（71%）、「紙テープを使った活動」が25名（52%）、「コラージュからのパフォーマンス」が22名（46%）である。

手遊びは、8割以上の受講者が参考になった実践内容として挙げている。手遊びは日常の保育活動で使われることも多く、活用目的によって多様な展開が可能な教材である。講習会では、各受講者が日常の保育で使っている手遊びについての発表から、展開していくという活動内容であったことから、手遊びの種類を互いに実践することでの情報交換と、その内容についてグループ活動の中で変化させる、発表するという展開が、実際の保育に活かすことができるという点で、参考になったとの回答が多かったものと推察される。

墨汁と紙コップを使った活動は、7割の受講者が参考になった内容として挙げている。これは墨汁という素材が身近であることや、活動が垂らす、こずる、描くなど技術を要しない活動である

こと、またロール紙と組み合わせることによって、開放感を感じながら自由に表現することの楽しさを、受講者自身が体験的に知る機会となったことが、参考になったとの回答に繋がっているものと推察される。

紙テープは半数以上の受講生が参考になった活動内容として挙げている。紙テープは、保育現場においても保育教材として使用しているものであるが、今回は床に転がし、空間に描き、オブジェへの展開と、普段の使い方とは異なり、多様な活用の仕方への気づきが参考になったとの回答に繋がったものと思われる。

受講者の回答では「紙テープであそこまで大胆に使って遊べること等、自分の体験したことのないことが沢山あり良かった」、「紙テープの斬新な活用法と墨を使ったものは驚きでした」等が見られる。

コラージュからのショートパフォーマンスも約半数の受講者が参考になった内容として挙げている。この活動は、一つの素材の展開や、一つの活動から様々な表現方法への展開、グループで創り上げることへの体験等が参考になったとの回答に繋がっていると推察される。

活動の展開についての受講者の回答には、「造形活動からパフォーマンスまで様々な体験できて良かった」、「一つの活動が必ず次の活動に繋がっていくので、自分の創ったものを活かす経験ができたと思う」「広い空間で、普段使用しないロール状の大きな紙を使っての表現活動や紙テープを使っての活動は、開放感を思い存分感じながら表現することを楽しめた」等が挙げられている。

6) 表現遊びへの活用について

図10、表6は、講習における実践内容について、幼児の表現遊びへの活用についての受講者の回答内容を表したものである。

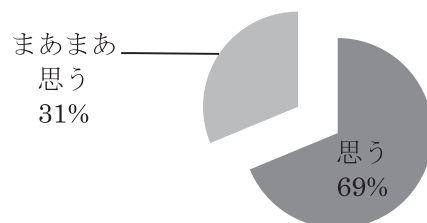


図10：保育実践活動の活用

表6：表現遊びへの活用

《素材》

- ・身近な素材の利用に仕方について、改めて見つめ直そうと思っている。紙テープを運動会のオープニングで出来たら良いと思う。
- ・今回紙コップに墨汁をつけての活動をしたが、いつもとは違う身近にあるものの表現の仕方を考えてみようと思う。
- ・紙コップ一つにしても、使い方によって様々な表現活動へ活かせることを改めて感じたので、今年年齢に合わせて取り入れていきたい。
- ・小さい子にもできる「墨遊び」をして、正月の書き初めでもしたいと思う。なかなか匂いをかぐことも保育ではないので。
- ・素材の使い方で作品を作ったり、体を動かしたりと活用できるのでいろいろな素材を活用していきたい。
- ・紙コップを使って、絵を描くことが楽しかったので、絵具を使って実践してみたい。

《活動の展開》

- ・手遊びの展開のように、一つの遊びにこだわらず、そこから展開させてさらにいいものと考えていこうと思った。
- ・まずは今日やった手遊びからの発展等、子どもと一緒に創るのもおもしろそうだと考えている。
- ・何かを一つ行うだけでなく、次の日でもそれを使ってもうひと展開させていくことを取り入れていきたい。
- ・幼児が様々な場面で表現できるような素材を準備したり、空間作り、場の設定をしていきたい。
- ・私自身、表現活動が大好きだが、身体表現だけでなく、音楽的表現、絵画的表現、体育的表現と融合して楽しめるよう工夫していきたいと思う。
- ・自己表現方法はたくさんあるのでいろいろな方法で表現する楽しさを感じる活動がしたい。

《表現遊びへの関わり》

- ・表現は正確が無い。自分の思うままの子ども達の言葉や考え、工夫を大切に、新しいこと（素材）にも挑戦していきたい。
- ・固定概念にとらわれることなく、自由な表現活動を取り入れていきたい。
- ・改めて保育者自身が楽しむということと、保育者から提案するだけでなく、子どもたち自身から生まれる表現力をキャッチしていきたいと思った。
- ・教師自身もたくさん関わり、子どもと一緒に活動していく中で、型にはまらない表現をしていきたい。
- ・日々の活動の一つ一つが子ども達の表現力に繋がっている、場面を大切にしていく。
- ・身の回りに目を向け、話題に取り上げ、見逃しがちな不思議や面白いことを見つけていきたいと思う。
- ・子ども達への導入の仕方を工夫し、子ども達の表現活動の広がりを十分に促すことができるよう力を入れていきたい。
- ・チーム保育の良さを活かし、連携を図り良い保育を行っていく。楽しさを十分に味わえる。喜びと発見の溢れた保育をしたい。
- ・表現活動の重要性を改めて感じたため、この経験を子ども達に伝えたい。

図10より、講習会の実践内容について、実際の表現遊びへ「活用してみたいと思う」と答えた受講者は、33名（69%）、「まあまあ思う」は15名（31%）であり、幼児の表現遊びへの活用につい

て、積極的な捉え方をしていることが窺える。

表6より、具体的に活用してみたい内容について見ると、素材については紙テープや紙コップ、墨汁等が挙げられている。また、それらを「小さい子にもできる「墨遊び」をして、正月の書き初めでもしたい」、「紙テープを運動会のオープニングで出来たら良いと思う」「紙コップを使って、絵を描くことが楽しかったので、絵具を使って実践してみたい」等、年齢や行事、季節を考慮したり、他の素材に変える等、幼児の状況に合わせて工夫し、活動を展開しようとしていることが窺える。

活動の展開については、「何かを一つ行うだけでなく、次の日でもそれを使ってもうひと展開させていくことを取り入れていきたい」、「身体表現だけでなく、音楽的表現、絵画的表現、体育的表現と融合して楽しめるよう工夫していきたい」、「幼児が様々な場面で表現できるような素材を準備したり、空間作り、場の設定をしていきたい」等、一つの素材や活動からの展開を取り入れたり、表現方法の展開を工夫したり、空間や場の設定等も考え、表現遊びを展開していきたい等が挙げられている。

表現遊びへの関わりについては、「表現は正確が無い。自分の思うままの子ども達に言葉や考え、工夫を大切に、新しいこと（素材）にも挑戦していきたい」、「日々の活動の一つ一つが子ども達の表現力に繋がっている、場面を大切にしていこう」、「子ども達への導入の仕方を工夫し、子ども達の表現活動の広がりを十分に促すことができるよう力を入れていきたい」、「表現活動の重要性を改めて感じたため、この経験を子ども達に伝えたい」、「固定概念にとらわれることなく、自由な表現活動を取り入れていきたい」等、表現活動の重要性や日々の生活に目を向けた関わり、幼児の自由な表現活動を促すような関わり大切さを再認識し、表現遊びを行っていききたいとの考えが挙げられている。

これらことから、実践活動内容や素材について、また活動の展開について、幼児の表現遊びへ活用の可能性が示唆されているものと推察できる。

3. 保育現場における表現遊びについて

(1) 実際の保育現場における表現遊びの実態について

表7は、保育現場で行われている表現遊び及び使用素材の主なものについてまとめたものである。

表7：幼児の表現活動・遊び、及び使用素材

	表現遊びの具体的な内容	素材
絵画制作	<ul style="list-style-type: none"> ・ 絵画制作（人の顔、経験画、観察画等） ・ にじみ絵・はじき絵・吹き絵・マブリング ・ 野菜スタンプ・手形・足形 ・ 夏には開放的に絵の具でボディペインティング等・絵具での絵画 ・ 色水・絵具での自由表現 	タンポン・画用紙・クレヨン・ストロー・水性ペン・絵具・マジック・墨・色鉛筆・砂・新聞紙・広告・牛乳パック、クレパス・折り紙・土・水・どろ、リボンテープ・自分の手・指先
造形制作遊び	<ul style="list-style-type: none"> ・ 廃材を利用し、自分のイメージするものを作る（廃品での製作） ・ ペープサート ・ 好きなコスチュームを作り身につけることで自己表現 ・ 新聞紙（ビリビリ破いて細くなったら花吹雪のように投げてみる。カラービニールに入れてボールにしたり、カエルや動物を作る。） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 廃品：牛乳パック・ペットボトル・小箱・缶・コーヒーフィルター・プリンカップ・トイレットペーパーの芯 ・ 自然物・スズランテープ ・ 新聞紙・布・段ボール等・粘土 ・ カラービニール、色画用紙 ・ タンポ・絵具・クレヨン・ペットボトル ・ 画帳・サインペン・クレヨン、粘土 ・ 小麦粉粘土・スタンプ
身体表現遊び	<ul style="list-style-type: none"> ・ CDを使つてのリズム遊び ・ 楽器の音に合わせて自由に体を動かす ・ ピアノに合わせイメージして動く（動物に変身して、テーマを決めて） ・ 子どもと振り付けを考えて踊る ・ リトミック遊び（ピアノ・笛） ・ ピアノに合わせて楽しむリトミック 	<ul style="list-style-type: none"> ・ CD・楽器・ピアノ
音遊び	<ul style="list-style-type: none"> ・ 楽器遊び・リズム表現 ・ リトミック等の音楽表現・発表会等の歌 ・ いろいろな楽器での合奏 ・ ピアノや楽器又は手作り楽器を作つてのリトミック 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歌・CD・ピアノ・楽器・手づくり楽器
劇遊び	<ul style="list-style-type: none"> ・ いろいろなお話を題材にした劇遊び 	絵本・楽器・手づくり衣装

表7より、保育現場では、「絵画制作遊び」、「造形制作遊び」、「身体表現遊び」、「音遊び」

「劇遊び」、またこれらを組み合わせた「総合的な表現遊び」等、様々な表現遊びが行われていることが窺える。

活動場面も普段の保育の中での表現遊びや行事の向けての表現活動、各園の特徴的な活動としての表現遊び等、様々である。

素材も多種多様であり、空容器や新聞紙・広告といった廃材等の活用も多く見られた。

(2) 幼児期の表現遊びで期待される育ちについて

実際に保育・教育現場で表現遊びを幼児と共にに行っている保育者は、表現遊びの中にどのような育ちをねらいとしているのかについて見ていく。幼児期の表現遊びの中で期待されるものとして、「感性・想像力・創造力・発想力」、「興味・関心・意欲」、「自己表現力」、「コミュニケーション力」、「共感力・協調性・社会性」、「自己肯定感・他者受容」、「リラクセーション」等が挙げられている。

具体的な捉え方として、「感性・想像力・創造力・発想力」については、「表現活動を行い、自分が様々な方法で表現することで自分自身が創造性、想像性が豊かになり、コミュニケーションが広がる」、「何をするにもアイディアを持ったり、発想豊かに育つ」、「自分で考えようとする力」等が挙げられている。

「自己表現力」については、「自分の思いをしっかりと伝えられる子になる。人前で自分を出す、思いを表すことに抵抗が無くなる」等が挙げられている。

「共感力・協調性・社会性」については、「やさしさ、思いやり等の心の育ち」、「自分とは違う表現を認めることができるようになる」「自分以外の人物や物になりきること、相手の心情を考えたり、周りの様子に気付くようになったり、気持ちの面での育ちが期待されると思う」等が挙げられている。

「自己肯定感・他者受容」では、「自己肯定感、有用感はもちろんのこと、相手に対する思いやりや、気持ちを合わせ取り組む協調性、言葉で伝えあうことでの言葉の発達、折り合いの付け方等が育つように思う」、「他者に認められたり、認めることで自己肯定感へも繋がっていくと思う」等が挙げられている。

幼児の内面的な育ちが期待されているとの捉え方が多く見られる。また、「表現活動は生活の中で、いろいろな場面で行い積み重ねの中で養われ

ていくものだと思う」との回答もあり、表現活動における育ちは何かを作るといった限定的な場面だけでなく、日常の保育・遊びの中で期待されるものと捉えていることが窺える。

(3) 幼児の表現遊びを援助する上での課題

表8は、保育者が、表現遊びを援助する上で困

表8：表現遊びを援助する上で困難と感じている内容

<p>《興味を示さない子への援助》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あまり興味を示さない子の誘導の仕方・気持ちに乗ってこない子に対する導入や遊びへの取り組み。 ・表現活動をする時、手の汚れを非常に気にする子がおり、思うような表現に繋がらない。 ・参加を嫌がる子もいるので、全員で楽しく参加するための雰囲気作りや声掛け。 ・表現するといった活動を、上手く楽しめない子どもが増えてきているように感じる。またイメージを表現することに自信が持てない子どもが増えているような気がする。 <p>《苦手な子への援助》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・苦手な子への援助・内気な子や引っ込み思案な子にやる気を起こさせる対応の仕方や声掛け ・上手下手を意識してしまい、純粋にその活動を楽しめないような子はいますので、心を開くことから始めなければならない時に難しさを感じる。 ・絵が苦手な子に対しての援助の仕方、イメージが上手にできない子への声掛け。 ・子ども同士真似してしまうこと・友だちと同じような動き、制作になっている。 <p>《個々の子どもへ合わせた対応、年齢・発達に合わせた援助》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりのペースが違い、表現までに時間がかかり過ぎて個人差が出ること。 ・得意、不得意があること（ただのわがままではなく）を理解し、ひとり一人に合った援助ができていくか。 ・個々の発達によってどこからどこまでできるのか、やり方を考えることが難しい。 <p>《活動展開時の援助の仕方・保育者の技量等》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の技量がない時（演奏・絵画・技術）子ども達を楽しく活動させているか不安。 ・一つの遊びからの発展の仕方させ方が難しい。 ・こうするんだよー、こうだよーと表現の植え付けをしていいのかな？と思う。 ・どこまで手出しすべきか。 ・題材についてワンパターン化していく。 ・子どもの日常の中から表現活動へ繋げていくことが難しい。
--

難に感じている内容について表したものである。

表8より、保育者が幼児の表現活動を援助する際の課題、困難に感じている内容について見ると、「興味を示さない子への援助」、「苦手な子への援助」、「個々の子どもへ合わせた対応、年齢・発達に合わせた援助」、「活動展開時の援助の仕方・保育者の技量等」等である。

「興味を示さない子への援助」では、「あまり

興味を示さない子の誘導の仕方・気持ちに乗ってこない子に対する導入や遊びへの取り組み」や「表現するといった活動を、上手く楽しめない子どもが増えてきているように感じる」等の課題を挙げている。

「苦手な子への援助」では、「苦手な子への援助・内気な子や引っ込み思案な子」「上手下手を意識してしまい、純粋にその活動を楽しめないような子」、「友だちと同じような動き、制作になっている」等への援助の難しさを挙げている。

「個々の子どもへ合わせた対応、年齢・発達に合わせた援助」では、「一人ひとりのペースが違い、表現までに時間がかかり過ぎて個人差が出ること」、「個々の発達によってどこからどこまでできるのか、やり方を考えることが難しい」等が挙げられている。

「活動展開時の援助の仕方・保育者の技量等」では、「自分の技量がない時」、「一つの遊びからの発展の仕方させ方が難しい」等が課題として挙げられている。

表現について、日常の様々な場面での関わりを重要と捉えている一方、「子どもの日常の中から表現活動へ繋げていくことが難しい」など、普段の遊びの中での表現活動を捉え援助することの困難さを課題として挙げている。

IV. 総合考察

(1) 幼児期の表現活動

幼児期の表現活動について、「保育者は幼児と生活を共にし、子ども達が日々の生活の中で感じている、あるいは考えている、何気ないささやかな表現に心を寄せて、その世界を深く、広く共に味わい、創り上げていくことが求められる」こと、また「そのためには、保育者自身の生活体験に裏付けされた感性と、幼児の表現活動、表現意欲を引き出すための関わり、柔軟な環境の設定や素材及び活動のプロセスについての配慮が必要になる」ことを指摘した。(註3)

今回の研修における実践活動において、受講者自身が自己表現やグループでの表現活動を楽しみ、共有し、また共に創り上げていく体験を通し、受講者は表現活動・表現遊びについて、幼児と保育者の双方の視点を持つことができたものと考えられる。この体験により、幼児の表現遊びへの理解が深まり、より保育者として幼児の表現意欲を引き出すための関わり、柔軟な環境の設定や素材及び活動のプロセスについて考えるきっかけとなり、

様々な学びを得た結果として、今後、保育実践力が高まっていく可能性が期待できるものと推察される。

(2) 実践内容の幼児の表現遊びへの活用の可能性

今回の講習会で使用した素材について参考になった素材（複数回答）は、「紙コップ」が28名（58%）、スカーフが23名（48%）、「墨汁」が21名（44%）、「紙テープ」が20名（42%）、「ロール紙」が10名（21%）となっている。また、参考になった実践活動は（複数回答）、「手遊びの展開」が40名（83%）、「墨汁を使った活動」が34名（71%）、「紙テープを使った活動」が25名（52%）、「コラージュからのパフフォーマンス」が22名（46%）である。

活動に使用した素材は身近にあるものがほとんどであり、手に入り易いこと、また実践活動中の多様な使い方の体験が、幼児の表現遊びへの活用イメージに繋がっていったものと推察され、実際の表現遊びへの活用が期待される。

(3) 幼児の表現遊びの実態と期待される育ち

保育現場では、「絵画制作遊び」、「造形制作遊び」、「身体表現遊び」、「音遊び」、「劇遊び」、またこれらを組み合わせた「総合的な表現遊び」等、様々な表現遊びが行われている。

活動場面も普段の保育の中での表現遊び始め、行事での表現活動等も行われ、多種多様な素材を使いながら行われている実態がある。これらの日常的な表現遊びにおいて期待されるものとして、保育者は「感性・想像力・創造力・発想力」、「興味・関心・意欲」、「自己表現力」、「コミュニケーション力」、「共感力・協調性・社会性」、「自己肯定感・他者受容」、「リラクセーション」等を挙げている。

幼児の内面的な育ちが期待されているとの捉え方が多く見られる。幼児期の表現遊びが非認知的な能力の育ちを促すことを考えると、その重要性が認められる。

(4) 幼児の表現遊びを援助する上での課題

保育者が幼児の表現活動を援助する上での課題として、「興味を示さない子への援助」、「苦手な子への援助」、「個々の子どもへ合わせた対応、年齢・発達に合わせた援助」、「活動展開時の援助の仕方・保育者の技量等」等を挙げている。

「幼稚園教育要領」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」においては、表現の内容の取扱いについて、おおよそ次のように記している。

「身近な自然環境との関わりの中で得た感動を

他の幼児や教師と共有し表現することを通して感性を養うこと、幼児の自己表現が素朴な形で表れることに配慮し教師はそのような表現を受容し、表現しようとする意欲を受け止め、生活の中で表現を楽しむようにすること、生活や発達に応じ表現する意欲や表現を楽しむことができるように、遊具や用具等の表現の環境を整えたり、他の幼児との関わりができるよう配慮すること」などである。

これらのことは、幼児が自由で主体的な表現遊びを行うためには、幼児の発達に応じ、自然や様々な出来事に触れ合う機会や、幼児同士が関わりあえる機会、遊具や様々な素材に触れる機会等、日常的な環境整備と普段の生活の充実を図ることが求められることを意味している。その中で保育者は幼児の自己表現の特徴に配慮し、幼児の心の動きに敏感に反応し、受容し、共感していく丁寧な関わりが求められる。

幼児の表現遊びを支援する上での課題解決のためには、これらの視点を持つことが重要と考えられる。

V. まとめ

1. 研修における実践活動において、受講者は自身の表現活動やグループでの表現活動の体験を通し、幼児と保育者の双方の視点を持つことができ、この体験が幼児の表現遊びへの理解を深め、柔軟な環境の設定や素材及び活動のプロセスについて考えるきっかけや、様々な学び促し、この結果として、保育実践力が高められる可能性があるものと推察される。

2. 講習会で使用した素材について参考になったものとして、「紙コップ」が28名（58%）、スカーフが23名（48%）「墨汁」が21名（44%）、「紙テープ」が20名（42%）が挙げられ、参考になった活動内容は、「手遊びの展開」が40名（83%）、「墨汁を使った活動」が34名（71%）、「紙テープを使った活動」が25名（52%）、「コラージュからのパフフォーマンス」が22名（46%）である。

活動に使用した素材は身近で手に入り易く、また多様な使い方の体験が幼児の表現遊びへの活用イメージや、実際の表現遊びへの活用へと繋がっていったものと推察される。

3. 表現遊びにおいて期待されるものとして、保育者は「感性・想像力・創造力・発想力」、「興味・関心・意欲」、「自己表現力」、「コミュニケーション力」、「共感力・協調性・社会性」、「自己肯定

感・他者受容」、「リラクセーション」等を挙げている。

幼児の内面的な育ちが期待されているとの捉え方が多く見られる。幼児期の表現遊びが非認知的な能力の育ちを促すことを考えると、その重要性が認められる。

4. 幼児が自由で主体的表現遊びを行うためには、幼児の発達に応じ、自然や様々な出来事に触れ合う機会や、幼児同士が関わりあえる機会、遊具や様々な素材に触れる機会等、日常的な環境整備と普段の生活の充実を図ることが求められることを意味している。その中で保育者は幼児の自己表現の特徴に配慮し、幼児の心の動きに敏感に反応し、受容し、共感していく、丁寧な関わりが求められる。

幼児の表現遊びを支援する上での課題解決のためには、これらの視点を持つことが重要と考えられる。

VI. 今後の課題

今後課題としては、継続して保育実践力を引き出すための素材や活動内容、展開のプロセス等につい

ての検討を重ねるとともに、幼児の表現活動を支援する上での課題解決に向けて、授業実践を通し具体的な対応についての検討も進めていく。

註

- (註1) 斉藤葉子, 大木みどり「イメージと即興表現を引き出すための手遊びの重要性(1)－手遊びの展開例をもとにした保育実践－」, 羽陽短期大学紀要, 第8巻第4号
- (註2) 斉藤葉子, 大木みどり「保育実践力を高めるための実践的アプローチその1－授業実践活動における学生の取り組みの実態について－」, 羽陽学園短期大学紀要, 第9巻 第3号
- (註3) 斉藤葉子, 大木みどり「保育実践力を高めるための実践的アプローチその2－表現活動における素材の検討－」, 羽陽学園短期大学紀要, 第9巻 第4号
- (註4) 斉藤葉子, 大木みどり「保育実践力を高めるための実践的アプローチその3－表現活動における素材の検討その2」, 羽陽学園短期大学紀要, 第10巻 第1号

平成27年度羽陽学園短期大学 教員免許状更新講習アンケート調査

選択領域：「子どもと表現遊び」（6時間） 実施期日：平成27年8月6日（木）

＜次の項目について、該当するところに○あるいは文字を書き入れて下さい。＞

1. 性別 男・女
2. 年齢 ・30歳代 ・40歳代 ・50歳代
3. 所属 ・幼稚園勤務 ・教員採用内定者 ・教員勤務経験者 ・認定こども園 ・町立保育園、学校法人
・社会福祉法人保育園他 ・その他（ ）
4. 勤続年数（通算）（ ）年／現在の職場での勤続年数（ ）年
5. 職種（主な役割）
・園長 ・副園長 ・教頭 ・教務主任 ・教諭 ・保育教諭 ・保育士
・その他（ ）
6. 雇用形態
・正職員 ・臨時職員 ・パート ・その他（ ）
7. 講習内容について
 - (1) 実践活動内容についてはいかがでしたか
A良かった Bだいたい良かった Cあまり良くなかった D良くなかった
 - (2) 参考になった実践活動内容はありますか（複数可）
A紙テープを使った活動 B手遊びの展開 C墨汁を使った活動
Dコラージュからのショートパフォーマンス活動
 - (3) 使用した素材についてはどのように感じましたか
A良かった Bだいたい良かった Cあまり良くなかった D良くなかった
 - (4) 参考になった素材はありますか
Aカラービニール B紙テープ C布 Dロール紙 E墨汁 F紙コップ Gスカーフ
Hその他（ ）
 - (5) 実践活動の時間配分はいかがでしたか
A良かった Bだいたい良かった Cあまり良くなかった D良くなかった
 - (6) 実践活動の難易度はいかがでしたか
A易しい Bちょうど良い Cやや難しい D難しい
 - (7) 内容に対する時間配分はいかがでしたか
A良い Bだいたい良い Cあまり十分でない D不十分
 - (8) この講習の成果を、これからのあなたの保育実践活動に活かそうと思いますか。
A思う Bまあまあ思う Cあまり思わない D思わない
 - (9) この講習の開催の時期はいかがでしたか。
Aちょうど良い Bだいたい良い Cあまり良くない D良くない
 - (10) この講習会には、積極的に参加しましたか。
Aとても積極的 Bやや積極的 Cやや消極的 Dとても消極的

【自由記述欄】

◇日常の表現活動は、どのような内容を行っていますか。（使用している素材や使い方も）

◇幼児の表現活動を援助する上で、困難に感じていることは、どのようなことですか。

◇幼児期に表現活動を行うことで、どのような育ちが期待されると思いますか。

◇この講習に参加して良かったと思う点、良くなかったと思う点（改善すべき点）。

◇この講習に参加して、これからのあなたの保育実践活動をどのように展開していこうと考えていますか。

◇ご自由に感想を書いてください。

SUMMARY

Midori OOKI:

A Study on Practical Teaching Ability of Early Childhood Care and Education 4
— Examination of Practice Activity Contents of the Expression in Nursery School and
Kindergarten Teacher Workshop —

The purpose of this study is to grasp that the class practice activity contents in expression raise the childcare practice ability of nursery school and kindergarten teachers.

I conducted a questionnaire on nursery school and kindergarten teachers in workshop.

The results are as follows.

- (1) It was suggested that the class practice activity content of the expression raised the childcare practice ability of the nursery school and kindergarten teachers.
- (2) It was suggested that the class practice activity content of the expression was useful to the expression activity of the child.
- (3) In the expression activity of the infant, the nursery school and kindergarten teachers felt that it was difficult about the instruction to the child who did not show interest and instruction corresponding to the age.

(Uyo Gakuen College)